

【著書論文目録】(自昭和廿五年七月) (至同 八月)

國史關係 [著書]

原田日記 第一卷 西園寺公と政局 原田熊雄述 (A・5 四〇〇頁 岩波書店 三八〇頁)

日宋文化交流の諸問題 森克己著 (A・5 三二三頁 刀江書院 四〇〇頁)

民俗學研究第一輯 民俗學研究所編 (A・5 一九六頁 日本民俗學會 二八〇頁)

原敬日記 九ノ下 (B・6 四八六頁 乾元社 三五〇頁)

明治の革命 服部之總著 (B・6 三〇九頁 日本評論社 二五〇頁)

明治政治史 信夫清三郎著 (B・6 一八六頁 弘文堂 一五〇頁)

史道と美術 二〇ノ五 (七月) 植輪 末永雅雄
日本上代彫刻の展開(三) 小林太市郎
日本正倉院の生蘂(上) 田中重久
平城京の東西堀川の位置に就いて 田中吉永
平安京と堀川 柴田 實

歴史學研究 一四六(七月)

中世的土地所有權の成立について—平安時代の百姓名の成立の意義— 石母田五文學 一八ノ七(七月)

大正文學の社會思想的基盤 新島 繁
源氏物語の最初の形態(下) 武田宗俊
日本史研究 一二(七月) 特輯郷土史研究
後進地方における農民的手工業の性格—近世越後縮の場合— 北島正元
大都市の打毀しとその主體勢力—大阪の場合— 岡本良一
維新前後における南陸鯉魚業の勞働關係 秀村選三

史淵 四三(七月)
宋銅錢の我が國流入の端初 森 克己
天武「八姓」制定の意義 竹内理三
近世初期農村社會の構成 安藤精一
文化史學 一(七月) 同志社大學文化史學會
文化史學的思考—文化史復興への一寄興— 石田一良
傳香寺 裸地藏並に 小川光陽
法文論叢 一(六月) 熊本大學法文學會
倭成における源氏物語の受容 寺本直彦
史學雜誌 五九ノ六(六月)
越後山間地帯における純粹封建制の構造 北島正元

日本美術史研究の近狀—法隆寺台觀を中心— 秋山光和
史林 三三ノ三(七月)
古墳時代における文化の傳播(上) 小林行雄
人文學報 一(七月) 東京都立大學人文會
額田王年譜考 五唐 勝
日本歴史 二六(七月)
美術と明治初年の外人教師 河北倫明
十四・五世紀における倭寇の活動と構成 田中健夫
日曜に「密」字を標記した具注曆に就いて 石田幹之助
近世封建社會の特異現象 西山松之助
科學史研究(七月) 水田昌二郎
宇田川榕庵の研究(2) 史學雜誌 五九ノ七(七月)
日本中世禪林に於ける臨濟・曹洞兩宗の異同(上)「林下」の問題について—玉村竹二
中世佛敎史の動向と課題 森 龍吉
史林 三三ノ四
平安時代の農民—特に田堵・名主について 富川 滿
古墳時代における文化の傳播(下) 小林行雄
日本歴史 二七(八月) 岩生成一
御朱印船の繪馬について

北島正元

日本漁業史の覺書

羽原又吉

洗釣備—日本交渉史における立場と意義—

平野義太郎

文學會誌 創刊號 山口大學文學會

日本古代史解明に關する二三の構想—紀記

傳承の史實的要素について— 福尾猛市郎

東洋文化 三(七月)

近代・それを如何に把握するか

まつしまえいち

日本軍隊の崩壞

飯塚浩二

東洋史關係 [著書]

東洋陶磁鑑賞錄中國編 小林太市郎著(A4)

判二八〇頁 便利堂 一五〇〇圓

中國 上卷 マツクネア編 沖野亦男譯(A5)

5判五二五頁 三明社 八五〇圓

陰謀・暗殺・軍刀—外交官の回想—(岩波

新書) 森島守人著(一六一頁 九〇圓)

概説東洋歴史 鈴木俊著(A5判二七二頁

吉川弘文館 二三〇〇圓)

中國共產黨(アテネ文庫) 小島祐馬著(七八

頁 三〇〇圓)

朝鮮巫俗の現地研究 秋葉隆著(A5判一九

八頁 養徳社 三〇〇圓)

[論文]

大谷學報 二九ノ二(廿四年十二月)

明末佛教と基督教の相互批判(上)

横超 慧日

蒙古佛教の職階制について

春日 禮智

同 二九ノ三・四(五月)

明末佛教と基督教との相互批判(下)

横超 慧日

史淵 四三(六月)

宋末鞞勒の對外關係(高句麗滅亡以前)

日野開三郎

史學雜誌 五九ノ七(七月)

社の研究

中國農村社會の近代化過程

史林 三三ノ三(七月)

東亞における鑄幣金具とその文化的意義

樋口 隆康

同 三三ノ四(八月)

シナ中世貴族政治の成立について

人文地理 二ノ一(一月)

清代の馬駝路

説林 二ノ八(八月)

現實的の變革と中國古代思想家の立場—中國的ヒューマニズムへの序論—

笠原 伸二

東洋文化 三(七月)

中國における封建的商工業の機構

今堀 誠二

西日本史學 三(五月)

清朝の黒龍江省經營

山口大學文學會誌 一(三月)

荀子における先王と後王

聯句淺説

龍谷史壇 三三(六月)

簡易宿泊所としての唐代寺院の變俗開放

秦の對地經營

歷史學研究 一四六(七月)

中國古代帝國の一性格—前漢における

封建諸侯について—

西洋史關係 [著書]

マックス・ウェーバーの社會理論 青山秀夫

著(A5・岩波書店 四〇〇圓)

ミケルアンジェロ 木村素衛著(A6・弘文

堂 三〇圓)

河野 通博

川勝 義雄

スターリン主義批判 對島忠行者 (A 6・弘
文堂 三〇回)

ロシアに於ける資本主義の發達(上、下) W・
I・レーニン著 (B 6・五〇〇頁 眞理社
各五〇〇回)

物語アメリカ史 所 勇著 (B 6・二五〇頁
梧桐書院 一六〇回)

U・S・A 第一部四十二度線 フス・パッス
著 並河 亮譯 (B 6・三六三頁 改造社
二二〇回)

革命の女たち ミシュレリ著 三宅徳嘉・他
譯 (B 6・三五三頁 河出書房 二七〇回)

歴史の意味とその行方 高坂正顯著 (B 6・
福村書店 一六〇回)

國際連合米英ソの話 西田與四郎著 (東洋書
館 一六〇回)

世界の歴史・年表 飯塚浩二他編 (B 6・毎
日新聞社 三〇〇回)

文明の原動力 E・ハンチントン著 西岡秀
雄譯 (A 5・六〇四頁 實業之日本社 七
五〇回)

西洋經濟史 増田四郎著 (A 5・新紀元社
二八〇回)

世界史 石本誠一著 (B 6・山海堂 一八〇
四)

東西文明史論考 三浦新七著 (A 5・四九八
頁 岩波書店 五五〇回)

〔雜誌論文〕

史學雜誌 五五ノ六 (六月)

サルステイウス小論

一橋論叢 二四ノ二 (八月)

損害防止條項、特に Fine and Labour
Clause の史的考察

人文研究 一ノ七 (七月)

リアリズムについて

基督教文化 四八 (八月)

プロテスタントイイズム誕生の頃 森井 眞

人文學報 一 (七月)

中世都市に關する一研究

—ルアンの市政に就いて—

啓蒙時代及びフランス革命時代における

「祖國」の觀念 小場瀬卓三

「ヘーゲルの市民社會體系」序論 寺澤 恒信

フアウストの救 (上) 山田幸三郎

—キリスト者の體験的解釋—

プラトン及びアリストテレスの奴隸論 山本 光雄

歴史學研究 一四七 (九月)

古代世界から中世への移行の諸問題の研究
における新たな諸段階 宇尾野 久

人文科學論集四 (五月)
資本主義初期における

「産業資本對商業資本」の問題

—特にアンウインの所説を中心として—

人文地理學關係 [著書]

人文地理學概説(下卷) 織田武雄、帷子二郎、
藤岡謙二郎、辻田右左男、吉田敬市共著

(關書房、A 5 二八〇頁 二八〇回)

人口と集落 藤岡謙二郎編(柳原書店、A 5
一五〇頁 一五〇回)

都市近郊農業論 宮田秀雄著(實業之日本社
A 5 二五四頁 二八〇回)

世界地名事典1ア—オ(平凡社、三五二頁
六〇〇回)

アメリカ風土誌 東良三著(日本出版共同、
二八〇回)

世界經濟の機構分析 除野信道著(日本教文
社、一七五回)

北海道交通史 梅木通徳著(北方出版社、B
6 三五〇頁二五〇回)

DIE NEUGLIEDERUNG DEUTSCHL-

終戦後我が國における人文地理學の動向

GEOGRAPHICAL REVIEW July 1950

The Recovery Program in Sicily

D. Jenness

Effects of Boundary Changes in the

South Tyrol G. G. Weigand

Land Reform and Land Reclamation

in Japan. G. T. Trevartha

The "Coloured" Community in the

Union of South Africa K. Buchman &

N. Hurwitz

The Danudor Valley—"Valles

Opima" W. Kirk

The Relief Contour Method of

Representing Topography on Maps

K. Tanaka

New Seamount in the North Pacific

Ocean H. Nichols

Saharan Sand Dunes and the Origin

of the Longitudinal Dune

W. A. Price

Some Current Problems concerning

the Understanding of African

Vegetation H. B. Gilliland

を廻る村落社會構造の特性(二)——有留川筋
の田村と廣大寺池の稗田 喜多村俊夫

堀内 義隆

人は地を化し得べくして地に化せられる

金生 喜造

大阪府に於る高野豆腐製造の地理學的研究

野村 豊

社會地理二六(七月)

東亞北温帶の自然美 館脇 操

タスマニア ブラモール

新井 浩譯

地下資源利用の國際的比較 除野 信道

我が國に於ける特殊産業としての寒天業

野村 豊

大野川下流の輪中高田村の生活 兼子俊一

新井 浩

華北山西省北部五台縣城内外

社會地理二七(八月)

地形圖を用いての地理調査 渡邊 光

日本海西南の松島と竹島 秋岡武次郎

平城京廢都の新村 谷岡 武雄

木曾谷國有林の經濟地理 杉山 ぶみ

史林三三〇三(七月)

西アフリカに於ける二つの交易形態 岩田 廣治

清代山東省の官制陸上交通路 河野 通博

ANDS von Werner Münchener.
Frankfurter Geographische Hefte.

1949, Heft 1

DAS GRUNDGERÜST DER RÄUMLICHEN

ORDNUNG IN EUROPA von

Walter Christaller. Frankfurter Geographische Hefte, 1950, Heft 1

〔雜誌論文〕

地理學評論 二二三〇六(六月)

關東地方の通勤交通 有末 武夫

社會共同性に關する經濟地理學的研究——

伊豆七島利島について—— 大村 肇

檢地帳における地積(田畑篇)——長野縣伊那

谷春富段丘の例—— 淺香 幸雄

アルペル ドゥ マンジオン 人文地理學

の諸問題 木内 信藏

文化相似の量的分布とその地圖的表現

(Wilhelm Meile) 千葉 徳爾

新地理四〇七(八月)

古代中國の地理學の發達について

野口保市郎

信州飯山盆地に於る手漉和紙製造の地理學的

研究 辻本 芳郎

大和に於る二つの特殊な灌溉用水權とこれ

研究 辻本 芳郎

大和に於る二つの特殊な灌溉用水權とこれ

研究 辻本 芳郎

大和に於る二つの特殊な灌溉用水權とこれ

考古學關係 (著書)

- 岐阜縣史蹟天然紀念物報告書(第十一輯) (A5・70頁 岐阜縣教育委員會)
- 石川縣考古學研究會々誌 第二號(二八頁 石川考古學研究會)
- 群馬縣川内村千綱谷戸石塚調査予報 崗田芳雄著 (A5・二三頁)
- René Grousset; Sur les Traces du Bouddha 1948 Paris 240 fr.
- René Grousset; l'Inde 1949 Paris

〔雜誌論文〕

- 考古學雜誌三六ノ二(七月)
- イランに於ける最近の考古學的成果とステップの藝術 ルネ・グロッセ
- 日本に於ける巨石記念物 駒井 和愛
- 正倉院の布幕 原田 淑人
- 銅鐸面の「工字形器具を持つた人物」画像について 布目 順郎
- 阿波國名西郡源田出土の銅鐸とその遺蹟 三木 文雄
- 神奈川縣足柄郡下中村沼代石器時代敷石住居址調査略報 西村 正衛

著書論文目錄

鹿兒島縣伊佐郡羽月村下殿古墳發掘調査報告
會野、中川、佐藤

史迹と美術 二〇五(八月)

奈良朝寺院の二三の鎮壇具に就いて

梅原 末治

日本上代彩刻の展開(四)

小林太市郎

日本正倉院の生簾(下)

田中 重久

淡路日光寺の元享二年在銘五輪塔

藤澤 一夫

淡路三原郡堺村の石造五重塔と五輪塔

田岡 香逸

ORIENTAL ART vol. II, No. 3

WINTER 1945—50

Shennan E. Lee: JAPANESE ART

ART SEVENTH

Basil Gray: China or D'youngson

Michael Sullivan: The Traditional Trend in contemporary Chinese Art

Henni Deydier: l'Inscription du Bas-relief de

Kāpiti-Bégram et la chronologie de l'art du Gōndhāra

Sheila Yorke Hardy; Ku Y'ien Hsüan

執筆者紹介

- 五來 重氏 高野山大學教授
- 今津 晃氏 大阪大學助教授
- 水津一朗氏 京都大學大學生
- 池田 誠氏 京都大學大學生
- 特別研究生

宮崎市定著

東洋的近世

B6・二二〇頁
價二番圓 千二圓

いわゆる「世界史」理解の究極の鍵は東洋史の究明にあつて、「近世」という概念は世界史の立場に立つ限り新たに發見されるべきものである。
本書はかかる見地に基き、東洋史に於ける量の問題を取上げ、質的なものも量的なものに還元することによつて「西洋と東洋」の二つの世界に共通の地盤を探究し、「世界史研究の新しい公式を打立てんとした」もの。
あえて廣く一般におすゝめする。

發行所

大阪市東區南新町一ノ六
教育タイムス社
振替大阪七一九二〇番

彙報

京大國史關係

平戸松浦家史料調査 八月九日より一三日に亘り小葉川教授・岸助手の兩名は佐世保市長の委嘱にもとずく平戸地方學術調査の第一回として主として平戸松浦家所藏遺錄の調査を行った。その一部は本號資料紹介欄に發表されているが、今回の調査は短期間にて松浦家史料のみについても充分でなかつた爲、更に詳細にして且つ、民俗學・考古學・地理學等他方面からの調査が希望されている。

京大東洋史關係

東洋史研究會では八月二十五日(火曜)日本歴史學協會委員として京大人文科學研究所の日比野丈夫氏を推薦に決定。

自然史學會關係

第廿七回例會
六月十七日 心理學に於ける自爲條件と文化條件
第廿八回例會
七月八日「自然と文化」(I)合評會

第廿九回例會
七月二十四日「東亞の乾燥農業」安達生恒

第卅回例會

八月十二日 中國に於ける安息香と西洋のベンゾインとの源流 山田憲太郎

東方學術協會關係

大阪例會 昭和二十五年六月二十一日(水) 於大阪クラブ

日本古建築の鑑賞 京大教授 村田治郎

京都例會 七月十一日(火)於人文科學研究所 中國漫談 内山完造

夏季公開講座 於京都毎日會館 七月二十一日、二、三日。

京都と京都人 京大人文科學研究所員 日比野丈夫

京都人の社會的文化性格 京大教授 猪熊兼繁

京都の血縁社會 一家族法より見たる一 京大助教 太田武勇

京都の地縁社會 京大教授 柴田 實

風土と疾病 大阪學藝大教授 篠田 統

京言葉の系譜 文 博 新村 出

野洲川流域調査 京大人文地理學關係 織田助教以下教室關係者十數名は、大阪

學藝大學内田秀雄氏の援助を得て、七月二十一日から一週間に亘つて、野洲川域の灌溉・水利・開發を中心とする農村社會のフィールド・サーヴェーを行った。

野洲川堤防附近と堤防を離れた平野部・琵琶湖岸と内陸部。野洲川北流以北と北流南流に挟まれた輪中地域及び南流以南等において、自然的條件を媒介として飲料水・灌溉水等の水源・水質・分量を異にし、それに規制されて土地利用の地域的變化と地域社會の構造變化が並存すること、就中野洲川上流石部におけるダム築造による下流地下水減少に對する農民の反應が北流以北と南流附近とで著しく相違すること及び條里の施行された水田卓越地域と南流尖端新田に於ける野菜卓越地域との間に社會經濟構造の變化がみられること等に關するデータのかく集を試みた。

また野洲川堤防下の湧出水を利用してつくられた竹管による一種の簡易水道及びこれをめぐる降保集團としての池仲間存在・飲料水利用法の歴史的變遷に就いても興味ある資料が發見された。

蓋し該地域は湖東農村のタイプカルな一地域であり、錯綜した小面積の莊園や藩領のグループ・中世に於ける農民的宗教たる眞宗の

他地域にみられない強力な浸透等を歴史的パターンとし、七〇數馬力に及ぶ揚水ポンプを備えた灌漑の機械化を主導とする農村の近代化や京阪神の郊村的縁邊部としての性格等を現代的パターンとする。

本調査は、來春三月まで引きつゞき續行の予定である。

京大考古學關係

三重縣名賀郡比自岐村石山古墳調査

昭和二十三年以來毎夏休暇を利用して行つていた石山古墳の本年度の調査を八月五日より再開した。小林助手以下教室員五名が比自岐村役場に泊り込んでの調査であるが、今回は前方部に於ける埴輪配列の状況と、後岡部の内部構造とを明かにした。粘土槲が表面下二・五米位の所に主軸に平行に營まれ、被覆部中央は落下していたが、周圍に小石づみの水拔溝がめぐり、京都府妙見山古墳の前方部粘土槲と同じ趣を呈していた。尙お槲の内部は目下調査中である。

立命館大學地理學同好會記事

〇六・三〇 例會

濃美平野の先史地理 伊藤安男
日野商人團の交通路 樋口節夫
アルペール・ドウマンジュエオンの生涯と

その業績——特に「人文地理學の諸問題」について 谷岡武雄

〇八・二〇——二六 中部地方見學旅行
白鳥—白川村—大野盆地—福井—金澤—礪波平野—伏不港—富山—糸魚川—松本—諏訪湖—甲府 參加者 一六名

昭和廿五年度會計報告

(自昭和二十四年十一月一日
至昭和二十五年十月三十一日)

總收入

八〇、四四三、六二

内譯

前年度繰越金 二三、六二四、六二
文部省補助金 五〇、〇〇〇、〇〇
入會費 二、三四〇、〇〇
雜收入 四、四七九、〇〇
總支出 二四、四〇〇、八〇

内譯

大會費 五、〇九七、〇〇
例會費 五、五〇〇、〇〇
役員手當 八、一〇〇、〇〇
會務費 五、七〇三、八〇

差引殘高

五六、〇四二、八二
(文部省補助金ヲ含ム)
以上

京都大學支那哲學史研究會編 東洋の文化と社會

A5・二〇〇頁
價 三〇〇圓三角

舊殼を打破し新しき支那哲學を構成せんとする意圖の下に生れ出たものが本書である。本邦支那哲學界に於ける唯一最高の學術誌としてお薦めする。

内容目次梗概

朝鮮北部に於ける漢墓……………梅原末治
殷商子姓考附帝學……………加藤常賢
術數學の概念とその地位……………木村英一
韓非子の人間論……………福永光司
抱朴子に於ける統一の理念……………重澤俊郎
漢の正卒について……………西田太一郎

會友募集中!

會友には特典割引があります。

御希望の向きは弊社宛お申込み下さい。

大阪市東區南新町一ノ六
發行所 教育タイムス社
振替大阪七一九二〇番